

MONTHLY

神變別冊

宗派だより

令和6年5月号

醍醐寺開創

150年

令和六年五月六日発行
発行所 真言宗醍醐派宗務本庁

京都市伏見区

醍醐東大路町二十二

電話 〇七五―五七―一〇〇〇二

FAX 〇七五―五七―一〇〇〇二

法流を深め、未来へ紡ぐ

新緑が徐々に深まり青葉へと向かう時節となりました。醍醐寺では毎年五月十五日から二十一日までの一週間、秘仏である准胝観音のご開扉が行われます。醍醐寺は西国三十三観音霊場の第十一番札所でもあります。その霊場の中でも准胝観音を本尊としているのは醍醐寺のみです。准胝観音のお姿は経典や儀軌によって異なりますが、醍醐寺のご本尊は一面三目十八臂の像です。『七俱胝佛母心大准提陀羅尼經』には、この真言（おんしゃれいそれい そんदैい そわか）を唱えれば、一切の罪がごとく消滅し、その家から災難、病気などの災い、苦悩がなくなり、すべてが思い通りに成就すると説かれており、特に寿命長久等のご利益を授かることから、除災、延命、除病、求児の祈に修する本尊です。また、法流の面から准胝尊をとらえますと、小野方では正観音、千手、馬頭、十一面、准胝、如意輪を六観音としており、准胝尊は観音部に摂します。これに対して廣澤方では、聖観音、千手、馬頭、十一面、如意輪、不空絹索を六観音としており、准胝尊は仏部に摂します。

これらの相違については、小野方と廣澤方

護り、育てる

の双方の口訣等に述べられており、小野方は准胝尊が観音部に摂する理由を主に六つを挙げ、その内の一つは、六字曼荼羅の六観音の中に准胝の種字（ボ字）が書かれている点を挙げています。また、廣澤方は准胝尊が仏部に摂する理由を主に三つ挙げ、その内の一つは、真言に仏部の帰命句があるためと述べています。

これらの点は伝授を伴う口伝の部分を含みますので、ここでは詳細を控えておきますが、こういった事相や教相を学ぶ機会を、今後は醍醐寺でも積極的に開いていきたいと思っております。

とりわけ本年は醍醐寺開創千五百年という記念すべき年に当たります。醍醐の法流がこれからも脈々と相承されるように、特に事相の面に力を入れてまいります。その第一番目は、九月に醍醐寺座主・三宝院門跡 壁瀬宥雅大僧正猊下を伝授大阿闍梨として開筵する「理性院流 太元護摩 付息災」の伝授です。続いて種智院大学副学長 児玉義隆僧正を悉曇伝授阿闍梨として澄禪流および智満流の梵字悉曇伝授を開筵することにいたします。殊に梵字悉曇は、事相と教相を学ぶうえで

今月の掲載内容

- ・ 法流を深め、未来へ紡ぐ
〜護り、育てる〜 1
- ・ 録事 2
- ・ 宗派だより 3
- ・ 末寺・教会・醍醐寺だより 3
- ・ 本庁からのお知らせ 3
- ・ 醍醐寺からのお知らせ 3

浦郷 宜右

必須であり、探究すればするほど、その重要性を痛感するものであります。梵字を読み、字義を理解することは、事相・教相の知識を高めるだけでなく、聖教類を読み解く速さや理解度もまったく違ってくると思います。先に記した六観音の解釈においても、教学に梵字悉曇が必須であることは言うに及ばせん。また、一座行法における観想も、字義を観ずればより一層深まるものと思えます。悉曇の伝授は、約三年かけて十二会を予定しており、悉曇灌頂も開壇します。伝授は本来ならば師資相承、そして面受が原則ではございますが、遠方の方、日程が合わない場合でも、受法者全員が十二会全ての法味を漏らすことなく営めることができるように、リモートなどでの受講も可能にするなど、少し工夫を凝らした伝授にしたいと思います。

伝授の日程などの詳細は、追ってご案内いたしますが、どうぞこの機会に一層教学に励まれますことをお勧めいたします。そして醍醐派の青年僧侶が深みを増して、末葉が本業を護り、法流の血脈がつながっていくことを、祈念する次第です。

合掌

宗派だより

京の杜プロジェクト「福島県いわき市・桜植樹式」
 令和六年三月一日(金)
 会場…いわき市立錦東小学校に植樹
 出向…三好祥徳 執行、壁瀬智泉、渡邊慧海、城戸美和
 真言宗醍醐派常置委員会
 令和六年三月十三日(水) 午後四時 醍醐寺研修棟
 真言宗醍醐派第七十六次定期宗会
 令和六年三月十四日(木) 午前十時 醍醐寺研修棟
 令和六年三月十五日(金) 午前九時三十分 醍醐寺研修棟
 九星気学「暦と気学」講習会
 令和六年三月二十五日(月) 二十六日(火) 醍醐寺研修棟
 講師…東京 石原明順 醍醐山伝法学院特別講師
 親授式
 令和六年三月二十九日(金) 午前十一時 三宝院本堂
 兵庫 淡路聖天歓喜教会 上野顕弘師

末寺・教会・醍醐寺だより

清瀧権現桜会 開白 大般若転読法要
 令和六年三月十五日(金) 午後三時 伽藍 清瀧宮
 醍醐寺文書聖教指定調査
 令和六年三月四日(月) 三月九日(土) 霊宝館
 永村眞氏 藤井雅子氏 西弥生氏 宮田直樹氏 他十二名
 醍醐寺文書調査
 令和六年三月十二日(火) 三月十三日(水) 霊宝館
 高橋慎一朗氏 他一名
 醍醐寺顧問会
 令和六年三月十三日(水) 午後二時 醍醐寺研修棟
 醍醐寺文化財仏像調査
 令和六年三月十五日(金) 三月十七日(日) 霊宝館
 副島弘道氏 久保田綾氏
 彼岸会
 開白 令和六年三月十七日(日) 午前十時 平座理趣三昧 三宝院 弥勒堂
 午前十一時三十分 歴代墓所墓参 塔頭 菩提寺
 中日 令和六年三月二十日(水・祝) 午前十時三十分 土砂加持法要 伽藍 観音堂
 結願 令和六年三月二十三日(土) 午前十一時三十分 平座理趣三昧 三宝院 弥勒堂
 歴代墓所墓参 塔頭 菩提寺

本庁からのお知らせ

総務部より

宗教法人の寺院・教会は、毎年会計年度終了後四月以内に役員名簿と財産目録の写しを所轄庁(都道府県庁)に提出することとなっております。(『宗教法人法』第二十五条第四項)
 この他にも、収支計算書、貸借対照表、境内建物に関する書類、事業に関する書類の写し提出が必要となる場合があります(詳細は、真言宗醍醐派宗務本庁ホームページ又は、文化庁ホームページ参照)。
 宗務本庁では、これらの書類の写しを本庁にも提出いただくことを、宗教法人並びに非宗教法人の寺院・教会にお願いいたしております。
 また、寺院・教会は、適切な運営のため、当該寺院・教会規則に基づき、責任役員及び総代を置かなければなりません。責任役員・総代に欠員が生じた場合、任期満了になられた場合には、速やかに申請を行ってくださいますようお願いいたします。

財務部より

令和六年度の宗費賦課金は、六月以降にご請求させていただき予定です。
 本宗教師・修験道教師の方で、銀行引き落とし(個人宗費に限り)に登録されている場合は、八月の引き落としとなりますので、改めて引き落とし日をご通知させていただきます。
 醍醐寺開創千五十年慶讃事業義納金をはじめ、各種お支払いに関するお問い合わせは、宗務本庁財務部までお願いいたします。

教学部より

教学部では、さまざまな研修会のご要望を募集しております。
 現地で開催希望の場合は宗務所単位や、ある程度の参加人数でのご相談となりますので、是非お問い合わせください。

醍醐寺からのお知らせ

醍醐山伝法学院 第九十三回生入学式
 令和六年五月七日(火) 午前十時 伝法学院
 三宝院・得度式 三宝院本堂
 令和六年五月九日(木) 午前十時 三宝院 本堂
 准胝観音御開扉法要
 令和六年五月十八日(水) 開白 午前十時三十分 伽藍 観音堂
 令和六年五月二十一日(土) 中日 午前十時三十分 伽藍 観音堂
 令和六年五月二十一日(火) 結願 午後二時 伽藍 観音堂
 第一百十四回三宝院門跡大峯山花供入峰修行 醍醐寺開創千五十年記念入峰
 令和六年六月六日(木) 駈入護摩 午後二時 伽藍 柴燈護摩道場
 令和六年六月七日(金) 大阪練行―四天王寺・柴燈護摩―洞川練行―龍泉寺・柴燈護摩
 令和六年六月八日(土) 小篠根本道場・柴燈護摩―大峯山寺・柴燈護摩
 令和六年六月九日(日) 鳳閣寺・柴燈護摩―駈出護摩 伽藍 柴燈護摩道場
 午後五時頃解散予定
 聖宝理源大師・開山忌法要
 令和六年七月六日(土) 午前十一時 上醍醐・開山堂
 第七十三回三宝院門跡葛城山蓮華入峰修行 醍醐寺開創千五十年記念入峰
 令和六年七月七日(日) 午前六時三十分 受付
 正午 葛木神社御法楽・行者堂御法楽・
 午後一時 転法輪寺御法楽
 午後六時三十分 転法輪寺護摩道場柴燈護摩
 三宝院 解散予定

伝授開庭告知

醍醐寺では本年九月に左記の伝授の開庭を予定しております。
 日程などの詳細はあらためてご連絡いたします。

○理性院流 太元護摩 付息災 伝授

伝授大阿闍梨 醍醐寺座主・三宝院門跡 壁瀬宥雅 大僧正現下

○梵字悉曇伝授 坂井榮信 悉曇阿闍梨相承

澄禪流梵字・智満流梵字伝授・悉曇灌頂

第一会(十二会予定、九月は一会のみ)又、大師流梵字も予定

伝授悉曇阿闍梨 種智院大学副学長 児玉義隆 僧正

※約三年を予定し、悉曇灌頂を開壇します。

※講義はオンライン配信も予定しております。

<p style="text-align: center;">和光印刷株式会社</p> <p>〒602-0012 京都市上京区烏丸通上御霊前上ル TEL (075) 441-5408 FAX (075) 441-4982 E-mail info@wako-print.co.jp</p>	<p style="text-align: center;">杉本権七法衣店</p> <p>〒600-18304 京都市下京区新町通六条下ル TEL (075) 351-2890 FAX (075) 341-6774</p>	<p style="text-align: center;">山城屋文政堂 藤井佐兵衛</p> <p>〒600-18029 京都市下京区寺町通五条上ル TEL (075) 351-9363 FAX (075) 343-5500 http://yamasa-bunseido.com</p>	<p style="text-align: center;">大住法衣店</p> <p>〒604-18274 京都市中京区小川通三条上ル西堂町 TEL (075) 221-3087 FAX (075) 221-3038 E-mail oosumihoi@gmail.com</p>
<p style="text-align: center;">大峯山陀羅尼助丸 花谷神変堂</p> <p>〒638-10431 奈良県吉野郡天川村洞川235 TEL (0747) 64-0047 FAX (0747) 64-0070</p>	<p style="text-align: center;">林勘法衣店</p> <p>〒602-10874 京都市上京区河原町丸太町 西筋下ル東土御門町345 TEL (075) 231-2244 FAX (075) 255-6632 E-mail hayashikan@beachocn.ne.jp</p>	<p style="text-align: center;">法衣・仏具製造及び販売</p>  <p style="text-align: center;">井筒法衣店</p> <p>600-8468 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前) Tel 075-365-0001 0120-075-730 Fax 075-353-7021</p> <p>オンラインショップはこちらから →</p> 	<p style="text-align: center;">田中伊雅佛具店</p> <p>〒600-18453 京都市下京区万寿寺西洞院東入ル TEL (075) 351-2584 FAX (075) 341-8822 http://www.tanakaiga.com</p>
<p style="text-align: center;">松栄堂</p> <p>〒604-10857 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL (075) 212-5590 https://www.shoyeido.co.jp</p>	<p style="text-align: center;">今井半念珠店</p> <p>〒605-10934 京都市東山区大黒町通正面南入 TEL (075) 561-0307 FAX (075) 525-2557</p>	<p style="text-align: center;">上田法衣佛具店</p> <p>〒604-10913 京都市中京区河原町二条西入上ル TEL (075) 221-1334 FAX (075) 211-1858</p>	<p style="text-align: center;">土山印刷株式会社</p> <p>〒601-18308 京都市南区吉祥院向田東町14 TEL (075) 312-1321 FAX (075) 313-8521 www.tsuchiyama.co.jp</p>



醍醐寺開創1150年慶讃事業義納金について

今般の義納金は、醍醐寺開創以来1150年に亘って受け継がれてきた法流伝承の象徴として「法流の杜」を整備するための大切なものです。

詳細はお手元のパンフレットをご確認いただき、是非お早目の納入をお願いいたします。

ご不明点は宗務本庁までお問い合わせください。

[お問い合わせ] 宗務本庁 TEL : 075-571-0002

開創1150年記念 醍醐寺 国宝展

会 期：2024年6月15日(土)～8月25日(日)

休館日：月曜日、7/23(火)

*7/15(月・祝)、8/12(月・祝)は開館

会 場：大阪中之島美術館 4階展示室

時 間：10:00～17:00 (入場は16:30まで)

https://nakka-art.jp/exhibition-post/daigoji-2024/